

---

---

# 愛媛県子どもの生活に関する調査

---

---

－ 報告書 －

令和5年1月  
愛媛県保健福祉部

# ～ 目 次 ～

<b>I 調査の概要</b>	<b>1</b>
<b>II 回答者の属性</b>	<b>3</b>
1 性別	3
2 同居家族	4
3 健康状態	6
<b>III 調査結果</b>	<b>8</b>
【1】ふだんの生活について	8
1 学校生活の楽しさ	8
2 習いごとや部活動の状況	10
3 学校の授業に対する理解度	12
4 出席状況	15
5 遅刻や早退の状況	17
6 学校生活について	19
7 悩みや困っていること	22
8 相談相手の有無	25
【2】家庭や家族のことについて	27
1 世話をしている家族の有無	27
2 世話を必要としている家族	28
3 世話をしている理由	30
4 世話の内容	36
5 世話を一緒にしている人	42
6 世話を始めた年齢	44
7 世話の頻度	46
8 世話に費やす時間	49
9 世話をすることにより、できていないこと	55
10 世話をすることによる負担感	58
11 世話に関する相談経験	61
12 世話に関する相談相手	65
13 世話に関する相談をしていない理由	67
14 世話に関する相談相手の有無	70
15 交流の場（サロン）への参加意向	73
16 学校や周りの大人に助けてほしいこと	76
17 希望する相談方法	79

【3】 ヤングケアラーについて -----	82
1 ヤングケアラーの自覚 -----	82
2 ヤングケアラーの認知度 -----	84
3 ヤングケアラーを知ったきっかけ -----	87
【4】 ヤングケアラー支援に関する自由回答結果 -----	89
1 小学生 -----	89
2 中高生 -----	93

**調査結果 Topix -----99**

**資料 -----112**

1 小学生調査票 -----	112
2 中高生調査票 -----	122
3 国調査との比較 -----	135



# I 調査の概要

## 【調査の目的】

子どもが家族のケアやお手伝いをする事自体は本来立派なことであるが、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うことで、本人の育ちや教育に影響があるといった課題がある。

ヤングケアラーは、家庭内のデリケートな問題であることや、本人や家族に自覚がないことなどから、支援が必要であっても表面化しにくく、早期発見や支援に繋がりにくいといった構造となっている。

子どもの健やかな育ちを支えていくため、家庭における家族の世話の状況や生活上の悩み、支援ニーズ等を把握し、ヤングケアラーの早期発見と支援策の検討を行うための基礎資料にすることを目的として実施した。

## 【調査対象】

- ・ 公立小学校及び県立特別支援学校に通う5年生・6年生の児童
- ・ 公立中学校、県立高等学校、県立中等教育学校及び県立特別支援学校に通う中学1年生～高校3年生に該当する生徒

## 【調査方法】

- ・ 質問項目は令和2年度及び3年度に実施された国の調査を基本として設定
- ・ 1人1台端末を用いて、専用Webサイト上で回答する方法で実施

## 【調査期間】

令和4（2022）年7月5日～7月20日（16日間）の任意の日

## 【回答状況】

調査対象			回答状況	
学 年	児童・生徒数	学校数	回答数	回答率
①小学生	20,274 人	280 校	17,681 人	87.2%
小学5年生	10,200 人	280 校	8,934 人	87.6%
小学6年生	10,074 人		8,747 人	86.8%
②中学生	29,444 人	138 校	26,044 人	88.5%
中学1年生	9,888 人	138 校	8,947 人	90.5%
中学2年生	9,662 人		8,463 人	87.6%
中学3年生	9,894 人		8,634 人	87.3%
③高校生(全日制)	21,534 人	66 校	18,444 人	85.7%
県立高校1年生	7,414 人	66 校	6,476 人	87.3%
県立高校2年生	6,878 人		5,762 人	83.8%
県立高校3年生	7,242 人		6,206 人	85.7%
④高校生(定時制・通信制)	562 人	10 校	326 人	58.0%
合 計	71,814 人	494 校	62,495 人	87.0%

注：①～③は中等教育学校及び特別支援学校の児童・生徒を含む。

### 【報告書の見方について】

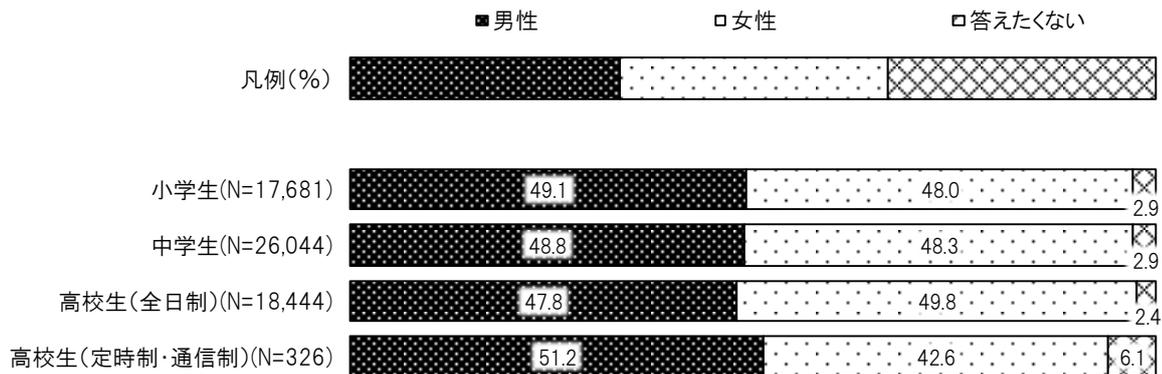
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示す「N」は、比率算出上の基数(標本数)である。
- (4) 小学生及び中高生の結果を併記するにあたり、設問文及び選択肢は、中高生用の文章を採用している。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

## II 回答者の属性

### 1 性別

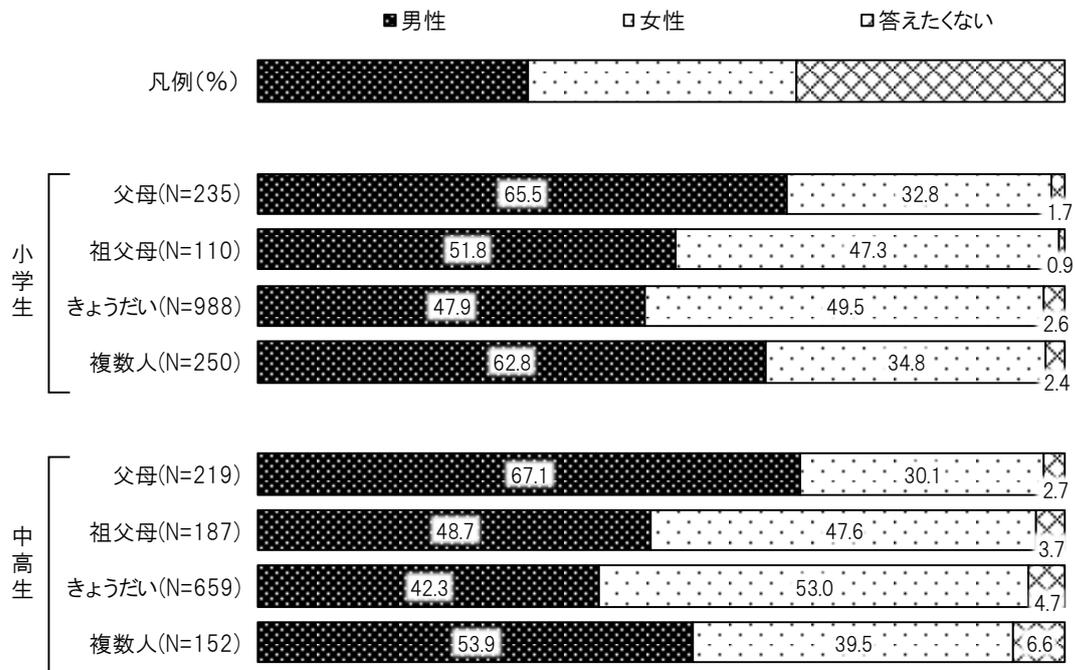
問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

回答者の性別構成比は、「男性」「女性」共に半数程度を占めている。



小学生、中高生共に、世話の相手が「父母」や「複数人」の場合、「男性」の割合が高く、世話の相手が「きょうだい」の場合、「女性」の割合が高くなっている。

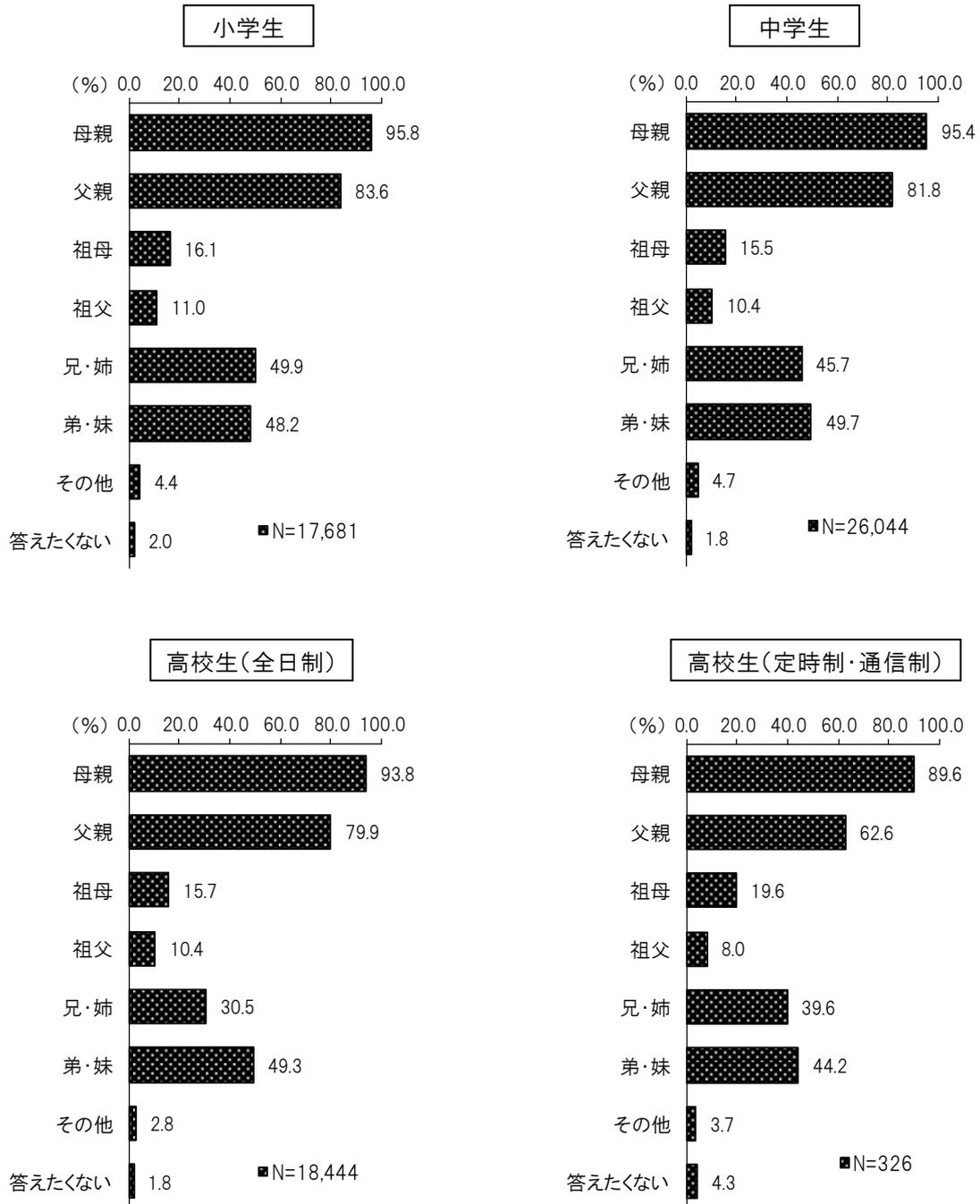
### <世話をしている家族別>



## 2 同居家族

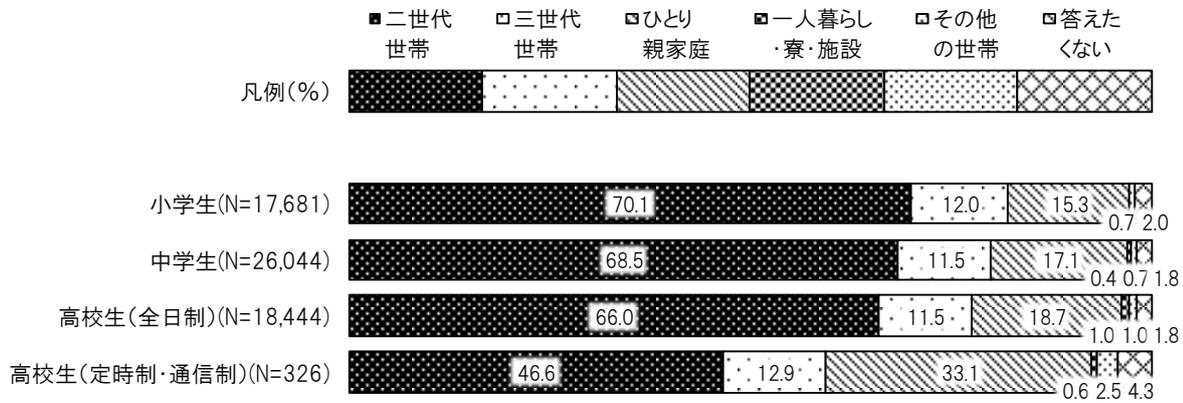
問4 あなたは、誰と一緒に住んでいますか。（あてはまる番号すべてに○）

同居家族については、「母親」が9割程度と最も高く、「父親」は小学生、中学生及び高校生（全日制）では8割程度、高校生（定時制・通信制）では6割程度となっている。



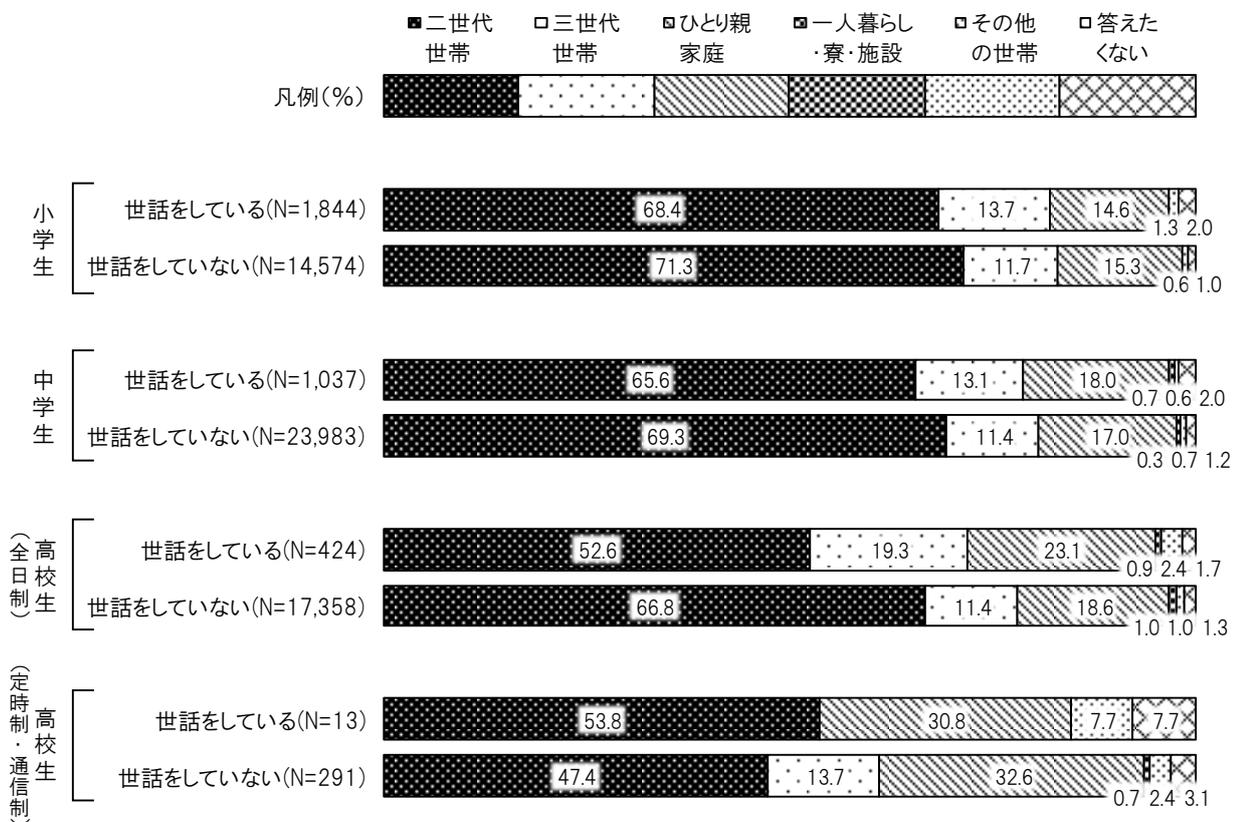
小学生、中学生及び高校生（全日制）では「ひとり親家庭」は約2割、高校生（定時制・通信制）では3割程度となっている。

### <家族構成>



高校生（全日制）では、世話をしている家族が「いる」人は「いない」人に比べて、「三世世代世帯」「ひとり親家庭」の割合が高くなっている。

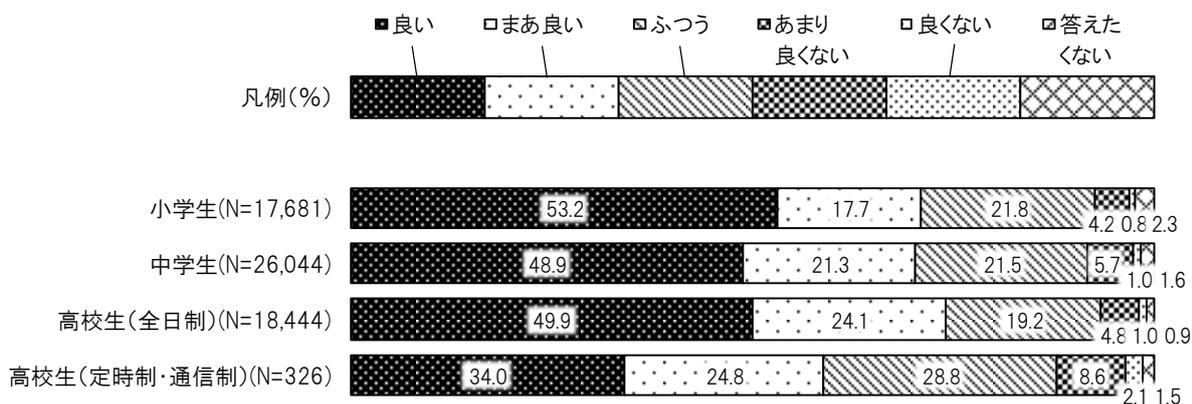
### <家族の世話の有無別>



### 3 健康状態

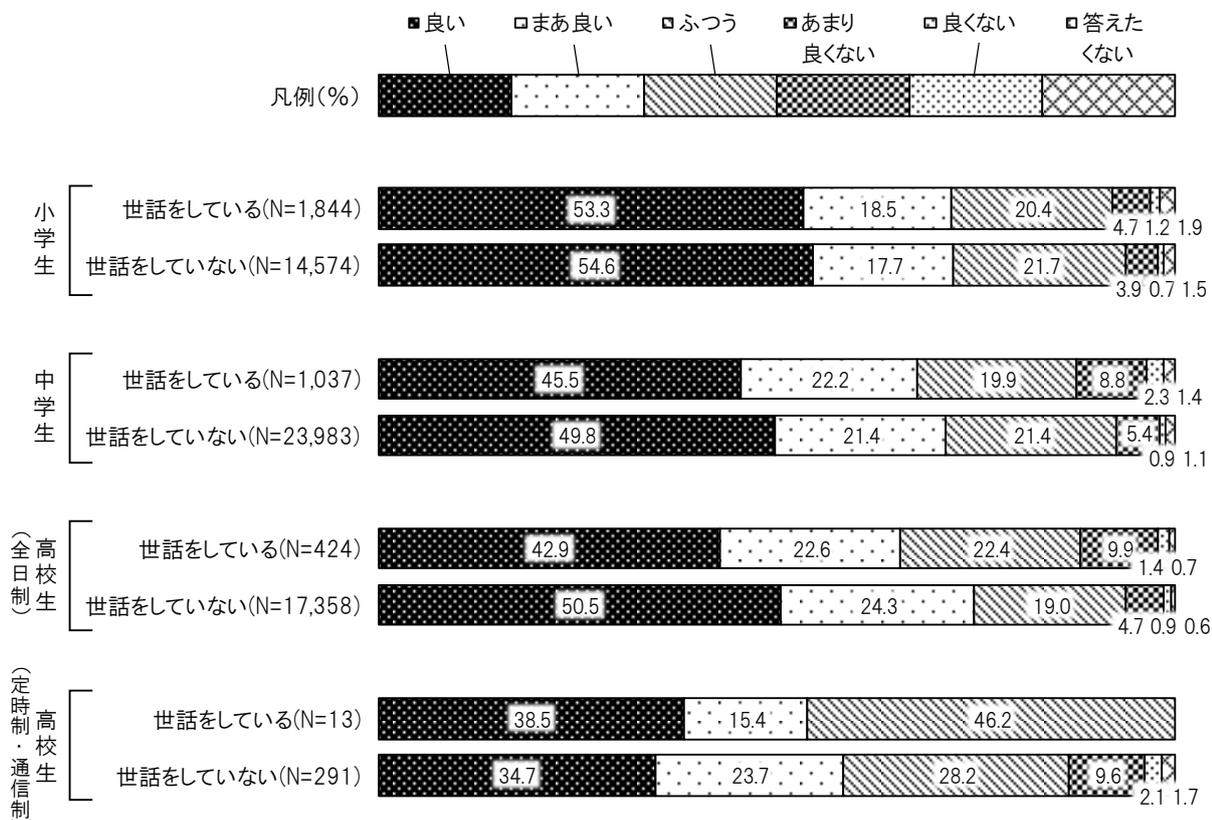
問5 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

健康状態については、小学生、中学生及び高校生（全日制）では約5割が「良い」、約2割が「まあ良い」と回答しているが、高校生（定時制・通信制）では「良い」が3割程度、「まあ良い」は2割程度となっている。



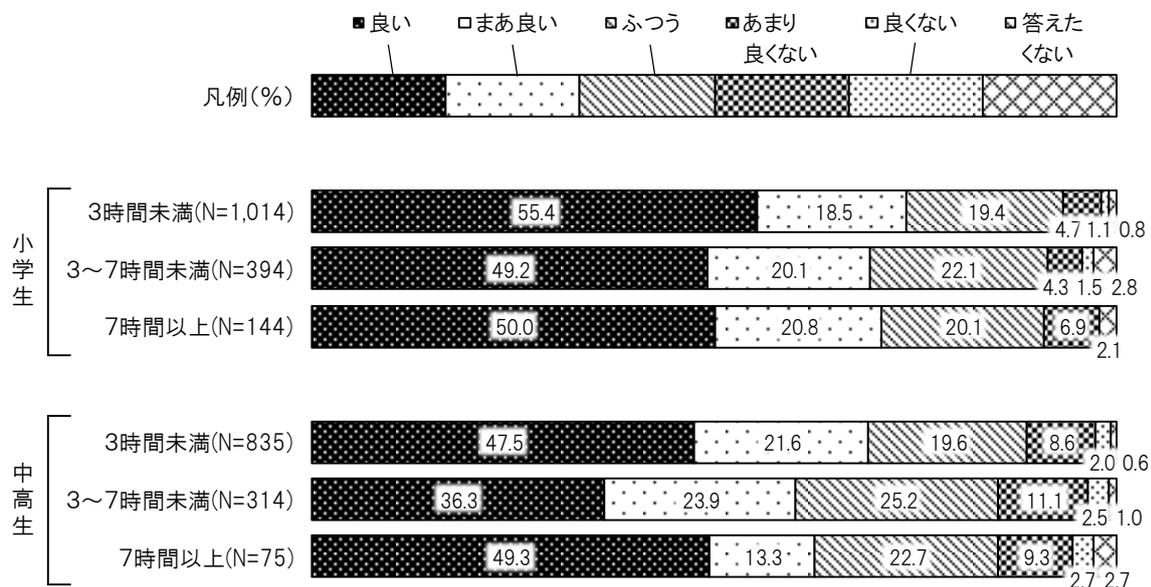
中学生及び高校生（全日制）では、世話をしている家族が「いる」人は「いない」人に比べて、「良い」の割合が低く、「あまり良くない」が高くなっている。

#### <家族の世話の有無別>



小学生、中高生共に、平日の世話に費やす時間が3時間以上の人は3時間未満の人に比べて、「良い」「まあ良い」の合計割合が低くなっている。

### <平日の世話に費やす時間別>



ヤングケアラーに「あてはまる」人は「あてはまらない」人に比べて、「良い」「まあ良い」の割合が低く、「あまり良くない」が高くなっている。

### <ヤングケアラーの自覚別>

